



取 付 説 明 書

	<i>Vitz</i>	<i>NCP91</i>
<i>TOYOTA</i>	<i>Ractis</i>	<i>NCP100</i>
	<i>ist</i>	<i>NCP115</i>
	<i>RUMION</i>	<i>NZE151N</i>

BLITZ

〔1〕安全上のご注意

■ はじめに

- ・ この製品についての説明には、製品を使用する際と、自動車に装着する際の注意事項が詳しく記載してあります。良くお読みになって、正しくお使いください。
- ・ 装着車両に、この製品システム以外の製品装着や改造を行った場合に発生する不具合に関して、弊社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ お客様ご本人または第三者の方が、この製品および付属品の誤った使用や、その使用中に生じた故障、その他の不具合によって受けられた障害については、弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ この製品および付属品は、改良のため予告なく変更する事があります。
- ・ キットの構成部品はパーツリストに記載してあります。取り付け前に異品・欠品の無いことを確認してください。

■ 警告

この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される危険の状況を示します。

- ・ 換気の良い場所で取り付け作業を行ってください。
換気の悪い場所で作業を行うと、爆発・火災の原因となります。
- ・ バッテリーのマイナス端子をはずしてから、取り付け作業を行ってください。
配線のショートなどによる火災、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ コネクタを外す場合、ハーネスを引っ張らず、必ずコネクタを持って取り外してください。
ショートなどによる火災、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ この製品に異音・異臭などの異常が生じた場合には、製品の使用をすみやかに中止し、販売店または弊社までお問い合わせください。
そのまま使用すると、感電や火災、電装部品の破損の原因となります。
- ・ この製品の取り付け時に、エンジンルーム内の電気配線や配管類を傷つけないよう注意してください。
ショートなどによる火災、電装部品・エンジン・車両の破損の原因となります。
- ・ 部品交換は自動車が不安定な状態で作業すると危険です。必ず自動車作業専用リフトを使用して、安全に作業してください。
【二柱式リフトをお勧めします】
やむをえずガレージジャッキを使用する場合は、必ずリジットラック（馬、安全スタンド）を併用して安全に作業してください。車載ジャッキでの作業は危険なので絶対に行わないでください。

■ 注意

この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、人が軽傷または中程度の傷害を負う可能性が想定される危険な状況および物質損害の発生のみが想定される状況を示します。

- この製品の取り付けは、必ず専門業者に依頼してください。
取り付けには専門の知識と技術が必要です。
- この製品を装着前に落下させたり、装着時に無理な力を加えないでください。
作動不良や空気漏れの原因になる場合があります。
- この製品の取扱いは慎重に行ってください。落としたり強いショックを与えないでください。
事故、火災、感電、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- エンジンルーム内の温度が下がってから、作業をはじめてください。
エンジン本体、ラジエター、排気関係の部品は高温になり、火傷の恐れがあります。
- 定期的に点検を実施し、十分に注意してご使用ください。
この製品は耐久性を考慮して、厳選された材料を使用し、厳重な社内品質管理のもとに製造されていますが、車両の使用条件などにより、耐久性が落ちる場合があります。
- 取り付け作業のために一時的に取り外す純正部品は、破損・紛失しないように大切に保管してください。
- 当社は取り付け作業による物的損害の責任を負うことはできませんので、慎重に作業を行ってください。
- ボルト・ナット類は、適当な工具で確実に締め付けてください。
必要以上に締め付けを行うと、ボルトのネジ部が破損します。

■ 重要事項

- この製品はノーマル車輛を基準に製作されています。
ノーマル車輛以外に取り付けた場合は、製品の機能・性能及び安全性・耐久性について保証いたしかねます。
- 製品装着時は、異物が混入しないよう、十分に注意をしてください。
異物等が混入すると最悪の場合エンジン破損の原因になる場合があります。
- 純正部品の取り付け、取り外しの作業はメーカー発行の整備要領書をよく読んでからおこなってください。
整備要領書がお手元にはない場合はメーカーにてご購入ください。
- 走行前には、オイル・冷却水・排気ガス等の漏れがないか点検を行ってください。
漏れのある状態での走行は、車輛火災やエンジン破損等の恐れがあり危険です。
- このキットはハイオクガソリン指定となります。
レギュラーガソリンを使用しますとノッキング等を発生させ、最悪の場合エンジン破損の原因になる場合がありますので、必ずハイオクガソリンを使用してください。
燃料タンクのガソリン入れ換え作業は危険を伴いますので、特に火気に注意してください。
- 本キット内部品の加工・分解・改造は絶対に行わないでください。
場合によっては燃調（セッティング）が変わってしまい、最悪の場合、エンジン破損の原因になる場合があります。
- 本キット以外の部品の取り付けは絶対に行わないでください。
弊社製マフラー、弊社製エアクリーナーの取り付けに関しては問題ありませんが、その他の部品（弊社製品も含む）の取り付けは絶対に行わないでください。
場合によっては燃調（セッティング）が変わってしまい、最悪の場合、エンジン破損の原因になる場合があります。
- 作業する際は必ず自動車メーカー発行の修理書をご準備の上、作業を行ってください。
- 本キットを取り付けの際にはトヨタ純正 SST 品番：09808-14020 が必要となります。
- 本キットを取り付けの際にはトヨタ純正のフューエルサクションチューブガスケット(1ヶ) 品番：77169-52020が必要となります。

【作業の方へお願い】

作業が終了しましたら、本取扱説明書は必ずお客様に返却してください。

作業にとりかかる前に必ず下記の点を点検してください。

- 純正のホースやバンド等の部品に変形、割れ、ひび等の劣化が生じていたら純正品の新品に交換してください。

〔2〕 適合車種

☐車 名： TOYOTA Vitz
☐型 式： NCP91 CVT 2WD
☐E/G型式： 1NZ-FE
☐年 式： 2005 年 2 月～
☐製品番号： 10168
☐製品名称： BLITZ COMPRESSOR SYSTEM

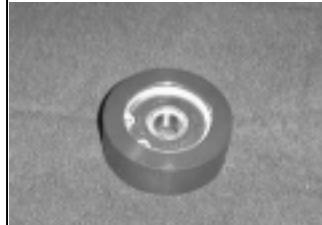
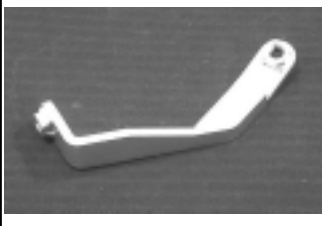
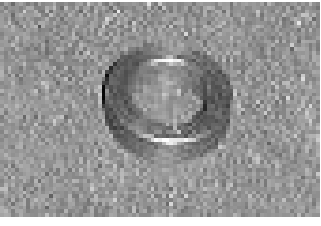
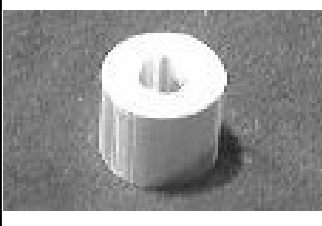
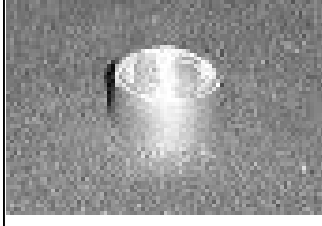
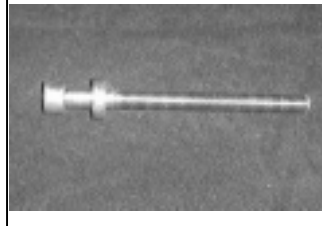
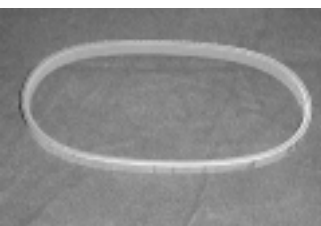
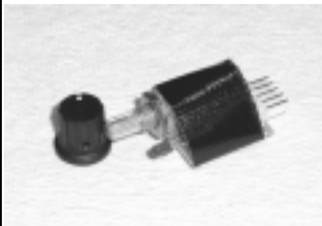
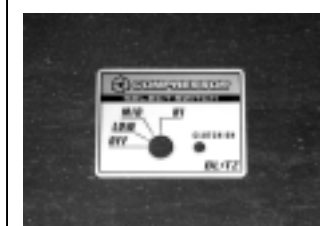
☐車 名： TOYOTA Vitz
☐型 式： NCP91 MT 2WD
☐E/G型式： 1NZ-FE
☐年 式： 2005 年 2 月～
☐製品番号： 10173
☐製品名称： BLITZ COMPRESSOR SYSTEM

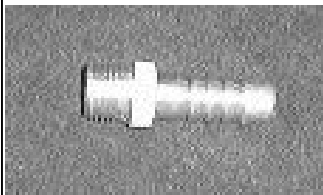
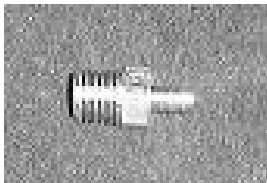
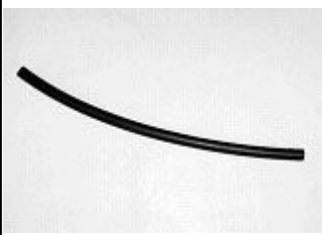
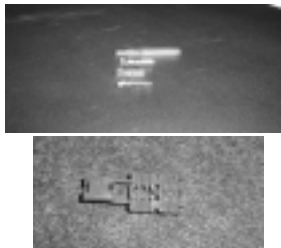
☐車 名： TOYOTA Ractis
☐型 式： NCP100 CVT 2WD
☐E/G型式： 1NZ-FE
☐年 式： 2005 年 10 月～
☐製品番号： 10168
☐製品名称： BLITZ COMPRESSOR SYSTEM

☐車 名： TOYOTA ist
☐型 式： NCP115 CVT 4WD
☐E/G型式： 1NZ-FE
☐年 式： 2007 年 7 月～
☐製品番号： 10184
☐製品名称： BLITZ COMPRESSOR SYSTEM

☐車 名： TOYOTA COROLLA RUMION
☐型 式： NZE151N CVT 2WD
☐E/G型式： 1NZ-FE
☐年 式： 2007 年 10 月～
☐製品番号： 10185
☐製品名称： BLITZ COMPRESSOR SYSTEM

〔3〕 パーツリスト

1. コンプレッサー本体 1 ヶ	2. コンプレッサーガasket 2 ヶ	3. インマニガasket 1 ヶ	4. テンショナープーリー 1 ヶ
			
5. インテークマニホールド 1 ヶ	6. インレットチャンバー 1 ヶ	7. テンショナーブラケット 1 ヶ	8. オルタネーターブラケット 1 ヶ
			
9. チャンバーブラケット 1 ヶ	10. レベルゲージステー 1 ヶ	11. オルタネータープーリー 1 ヶ	12. テンショナーボルト 1 ヶ
			
13. インナーカラー 1 ヶ	14. オルタネーターカラー 1 ヶ	15. オルタネータープーリーカラー 1 ヶ	16. アジスタースタール 1 ヶ
			
17. Vベルト 1 ヶ	18. スイッチコントローラー 1 ヶ	19. 電磁クラッチ用スイッチ 1 ヶ	20. スイッチ用プレート 1 ヶ
			

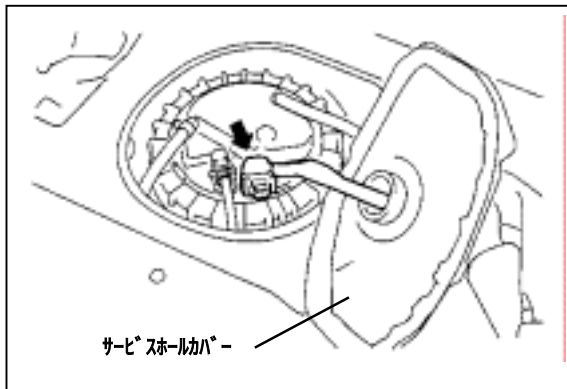
21. リレーハーネス 1 ケ	22. レギュレーター 1 ケ	23. ニップル 1/4×9 2 ケ	24. ニップル 1/8×4 1 ケ
			
25. 沈みプラグ 1 ケ	26. オイルホースφ9 1 ケ	27. Φ7 コルゲートチューブ	28. Φ22 コルゲートチューブ
			 (10185 のみ)
29. フューエルコントローラー 1 ケ	30. コンプレッサプレート 1 ケ	31. CAUTION ステッカー 無鉛プレミアムステッカー	32. ギボシ・エレクトロタップ
			
33. タイラップ			
			

①フランジボルト M6×16 7 ケ	②フランジボルト M8×20 4 ケ	③フランジボルト M8×35 1 ケ
④フランジボルト M8×45 2 ケ	⑤六角ボルト M10×100 1 ケ	⑥キャップボルト M6×30 2 ケ
⑦キャップボルト M8×30 2 ケ	⑧フランジナット M6 4 ケ	⑨フランジナット M10 1 ケ
⑩ワッシャー-M8 用 t=3.2 3 ケ	⑪ワッシャー-M10 用 3 ケ	⑫スタッドボルト M6 4 ケ

〔４〕燃料流出防止作業

作業前注意

- 作業前には必ずバッテリーのマイナス端子を取り外す。
- 作業は火気のそばでは絶対にしないこと。また、作業中には絶対に喫煙しない。
- ゴム製または皮製の部品はガソリンから離しておく。



- (1)リアシートクッションを取り外す。
- (2)サービスホールカバーを取り外す。
- (3)フューエルポンプ ASSY のコネクタを切り離す。

- (4)エンジンを始動する。
- (5)エンジンが自然に停止した後、イグニッションスイッチを OFF にする。

<参考>

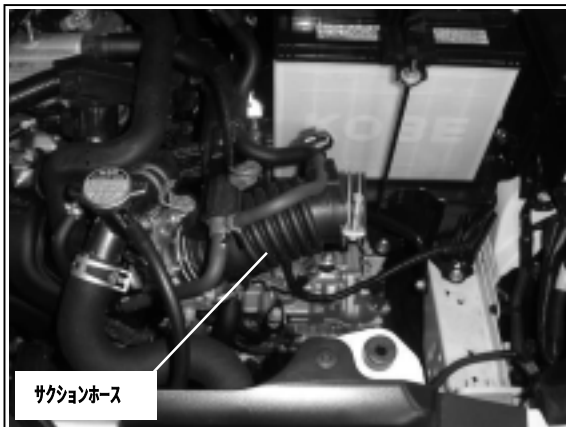
ダイアグコード P0171/25 の燃料異常が検出される場合がある。

- (6)再度エンジンをクランキングし、始動しない事を確認する。
- (7)フューエルタンクキャップをはずし、フューエルタンク内の圧力を抜く。
- (8)バッテリーのマイナス端子を取り外す。

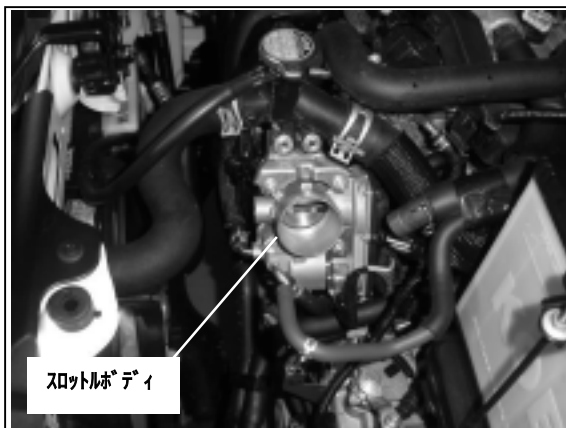
〔５〕純正部品取り外し作業



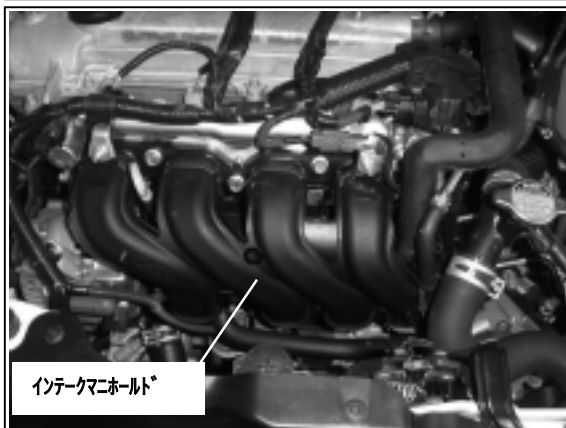
- (1)エンジンカバーを取り外す。



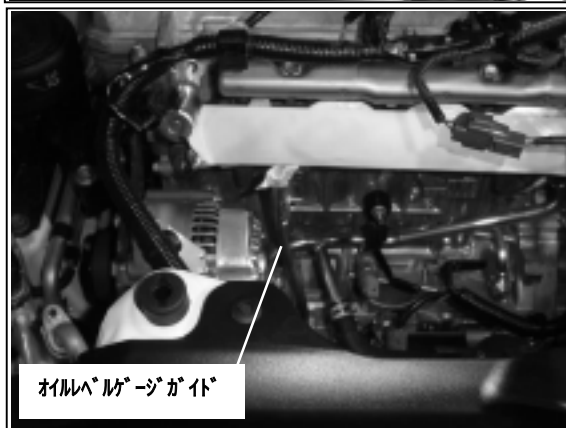
(2)エアクリーナーボックス、サクションホースを取り外す。



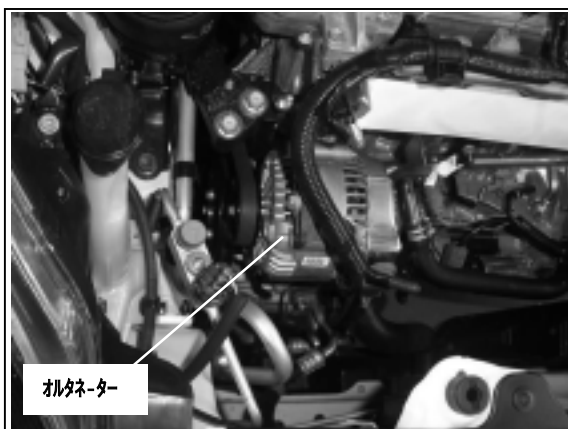
(3)スロットルボディを取り外す。



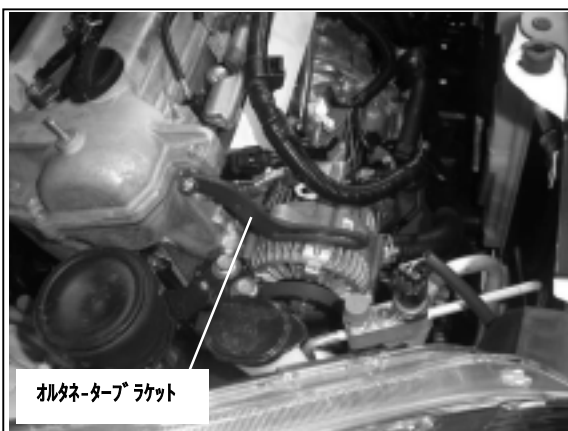
(4)インテークマニホールドを取り外す。
※インテークマニホールドを止めている M8 ボルト (3ヶ)、M8 ナット (2ヶ) は P12 (10) 項の取り付け時に再利用します。



(5)オイルレベルゲージガイドを取り外す。



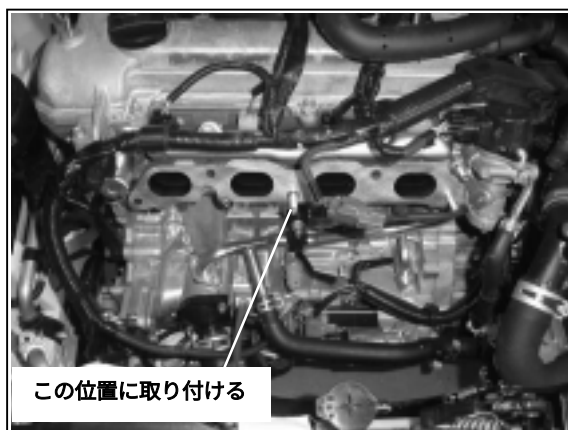
- (6)V ベルトを取り外す。
 (7)オルタネーターを取り外す。
 ※オルタネーターの下側の M 1 0 ボルトは P 1 1
 (7)項の取り付け時に再利用します。



- (8)オルタネーターブラケットを取り外す。

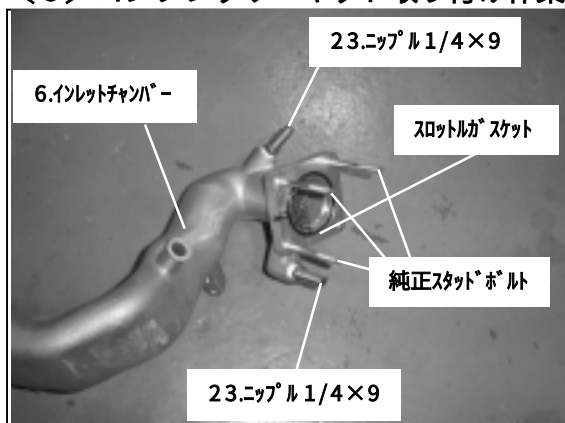


- (9)図のボルトを取り外す。

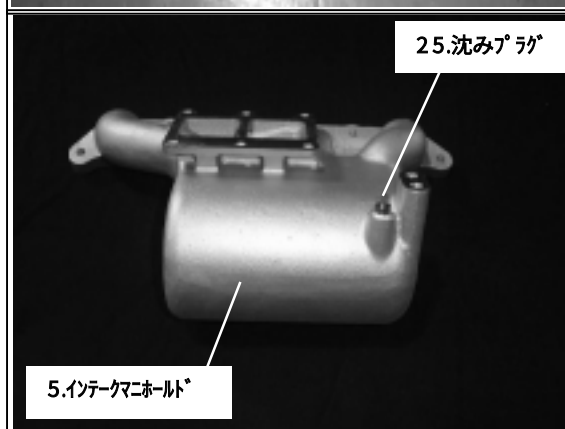


- (10)純正のスタッドボルトを図の位置に付け替える。

〔6〕コンプレッサーキット取り付け作業



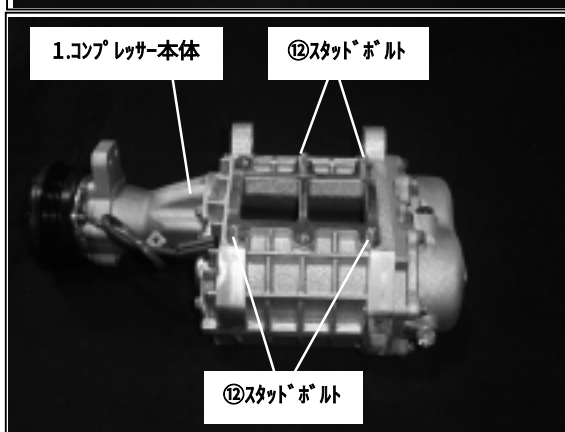
- (1) 純正インテークマニホールドよりスタッドボルト（3ヶ）、スロットルガスケットを取り外し、6.インレットチャンバーに取り付ける。
 - (2) 6.インレットチャンバーに 23.ニップル 1/4×9（2ヶ）を取り付ける。
- ※シールテープ等を使用して取り付けしてください。



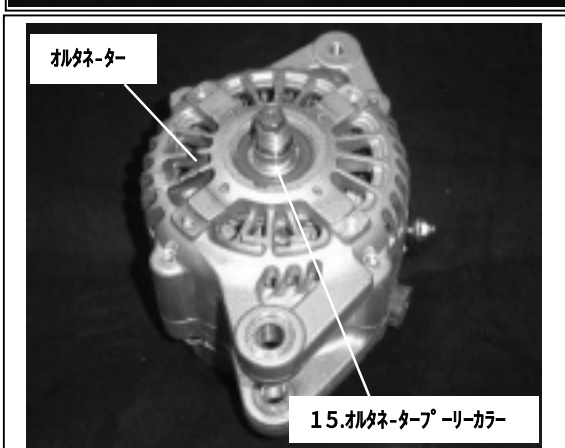
- (3) 5.インテークマニホールドに 25.沈みプラグを取り付ける。

〈参考〉

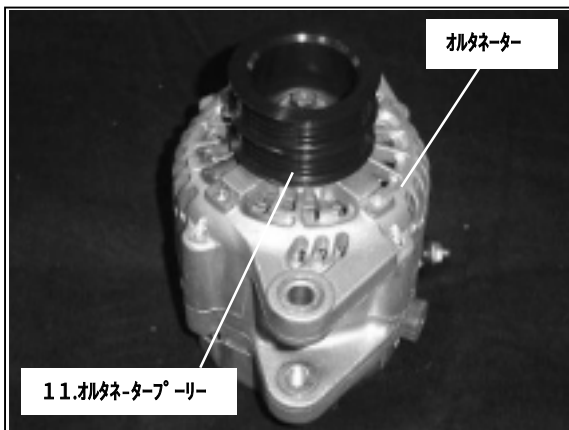
ブースト計を取り付けする場合は、24.ニップル 1/8×4を取り付けてください。
※シールテープ等を使用して取り付けしてください。



- (4) 図の位置に⑫スタッドボルト（4ヶ）を取り付ける。

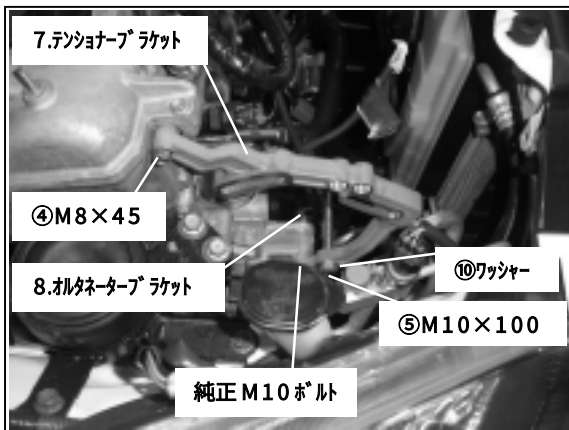


- (5) 純正のオルタネーターのプーリーを取り外し、15.オルタネータープーリーカラーを取り付ける。



(6)オルタネーターに 11.オルタネータープーリーを取り付け、純正ナットで締め付ける。

トルク：100N・m

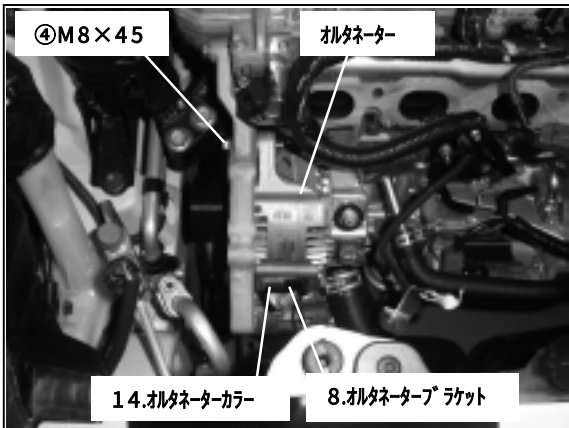


(7)7.テンショナーブラケット、8.オルタネーターブラケットを④フランジボルト M8×45、純正 M10ボルトを使用して仮付けする。

※純正 M10ボルトと 8.オルタネーターブラケットのネジ部を仮付けします。

※純正 M10ボルトは P9(7)項で取り外したボルトです。

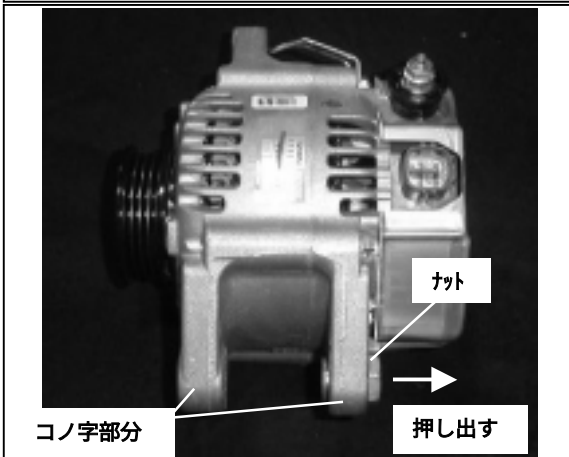
※図の穴位置に⑤六角ボルト M10×100、⑪ワッシャーM10用を通しておいください。



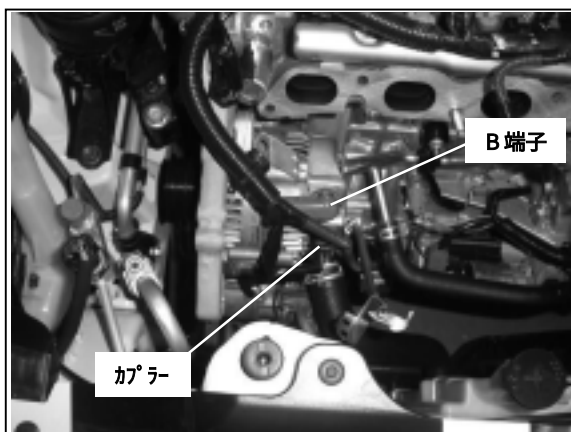
(8)オルタネーターを 14.オルタネーターカラー ④フランジボルト M8×45を使用して仮付けする。

※オルタネーターの下側は(7)項で通しておいた ⑤六角ボルト M10×100で仮付けします。

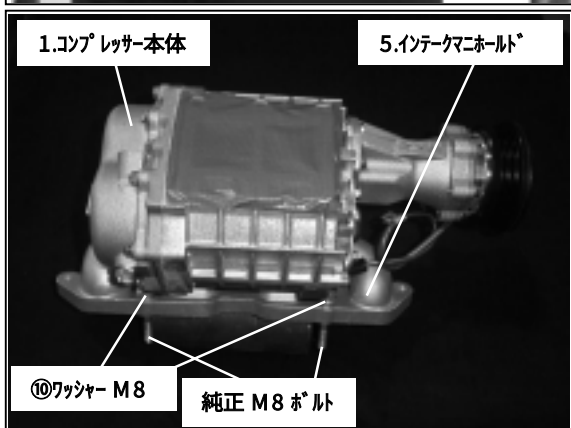
※オルタネーター下側のコノ字部分で 14.オルタネーターカラー、8.オルタネーターブラケットを挟みます。



※14.オルタネーターカラー、8.オルタネーターブラケットが入りにくい場合は、オルタネーターコノ字部分のナットを外側に押し出してください。



(9)オルタネーターに B 端子、カプラーを取り付ける。

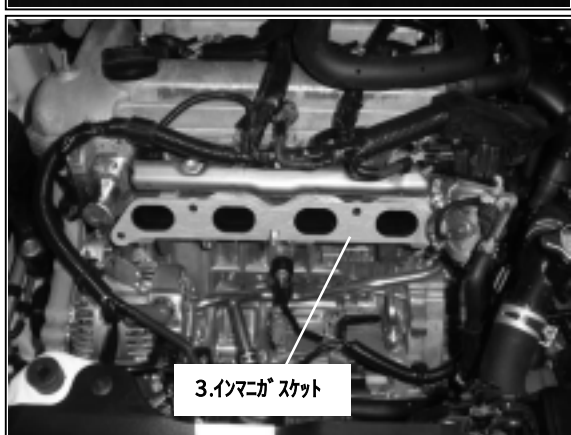


(10)1.コンプレッサー本体に 5.インテークマニホールドを 2.コンプレッサーガスケット、①フランジボルト M6×16 (2ヶ)、⑧フランジナット M6 (4ヶ)を使用して取り付ける。
※P8(4)で取り外した純正 M8 ボルト (2ヶ)、⑩ワッシャー M8 用 (2ヶ)を図の穴位置に通しておいてください。

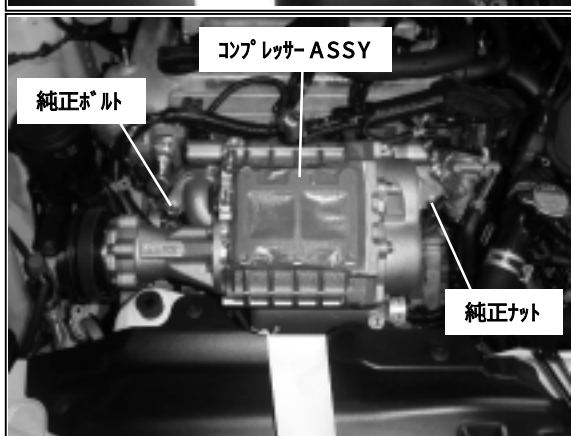
注意

1.コンプレッサー本体と 5.インテークマニホールドを組み付けた後では純正 M8 ボルトが入らなくなってしまいます。

トルク：10N・m



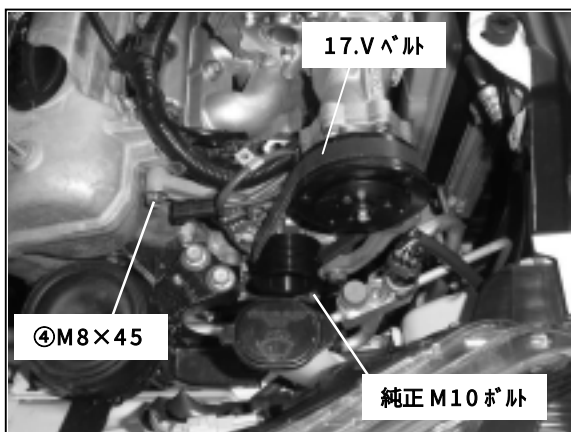
(11)インテークマニホールド取り付け面に 3.インマニガスケットを取り付ける。



(12)(10)項で組み付けたコンプレッサー ASSY を純正 M8 ボルト、純正 M8 ナットを使用して取り付ける。

※純正 M8 ボルト、純正 M8 ナットは P8(4)項で取り外したものです。

トルク：30N・m



- (13)7.テンショナーブラケットと 1.コンプレッサー本体ノーズ部分を⑦キャップボルト M8×30 (2ヶ) を使用して取り付ける。

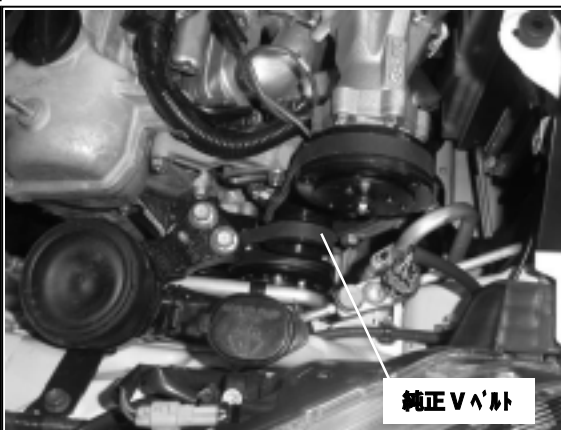
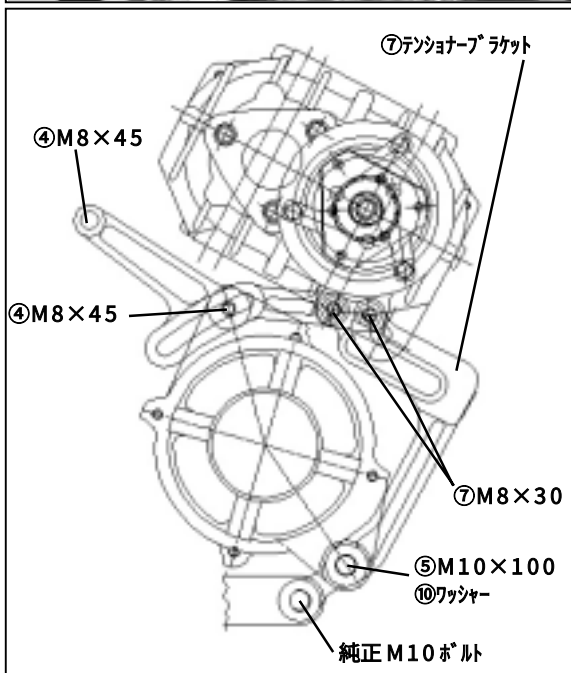
トルク：22N・m

- (14)P11(7)項で仮付けした④フランジボルト M8×45、純正 M10 ボルトを本締めする。

トルク M8：22N・m

トルク M10：45N・m

- (15)17.V ベルトを仮付けする。



- (16)純正 V ベルトを仮付けする。

- (17)ハブナットレンチまたはバーなどを使用して、オルタネーターを車両フロント側に押して、純正 V ベルトの張力を調整する。

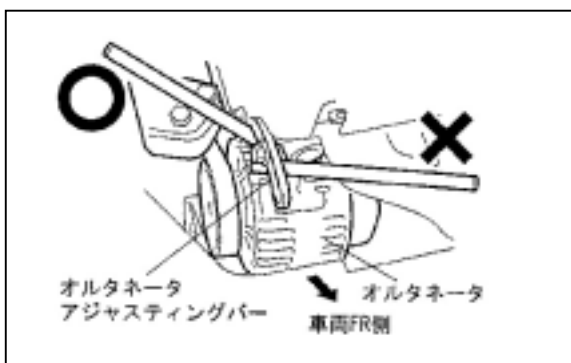
注意

V ベルトを張る際は、オルタネーターとエンジンマウンティングインシュレーターの間にハブナットレンチまたはバーを差し込み、テンションをかける。オルタネーターとカムシャフトタイミングオイルコントロールバルブ（インテークマニホールド側）の間にハブナットレンチまたはバーを差し込むとカムシャフトタイミングコントロールバルブを破損させる恐れがあるため、絶対に行わない。

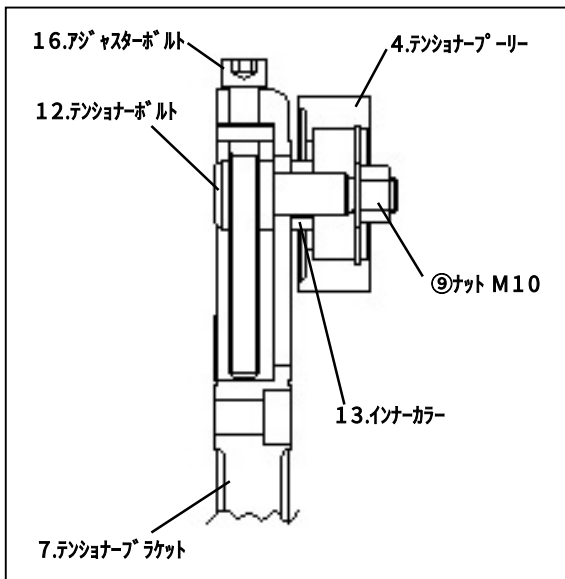
- (18)オルタネーター上側の④フランジボルト M8×45を締め付けてから、オルタネーター下側の⑤六角ボルト M10×100を締め付ける。

トルク M8：19N・m

トルク M10：54N・m

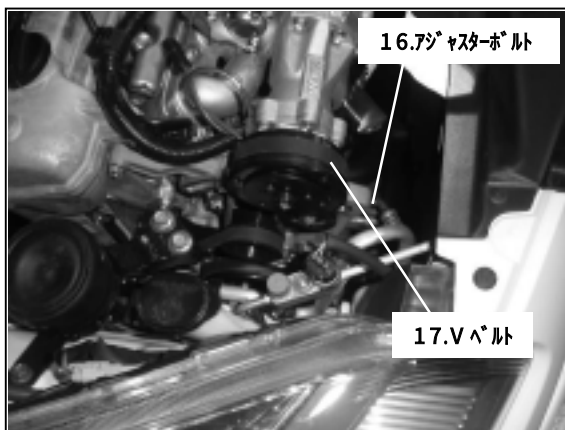
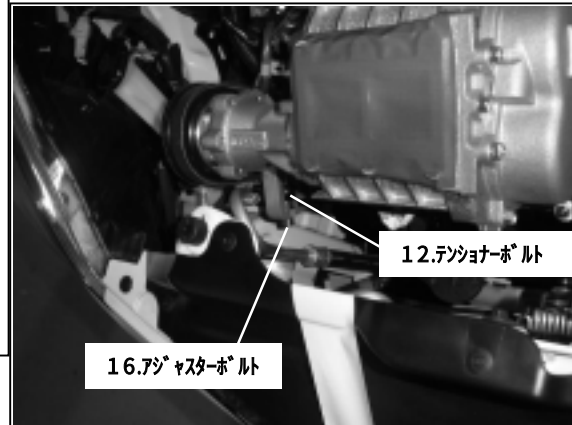


	新品時	点検時
張力 (N)	539～637	245～392
たわみ量 (mm)	7～8.5	11～13



(19) 12.テンショナーボルトに 16.アジャスターボルトを取り付ける。

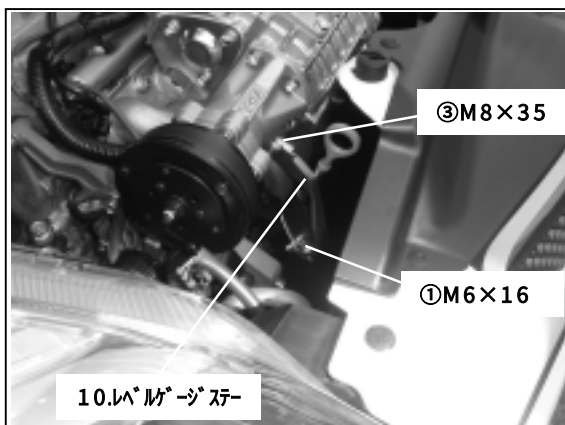
(20) 7.テンショナーブラケットに(19)項で組み付けたテンショナーボルト ASSY、13.インナーカラー、4.テンショナープーリー、⑨フランジナット M10を仮付けする。



(21) 16.アジャスターボルトを緩み方向に回転させ、17.Vベルトのテンションを調整し、⑨フランジナット M10を締め付ける。

トルク：35 N・m

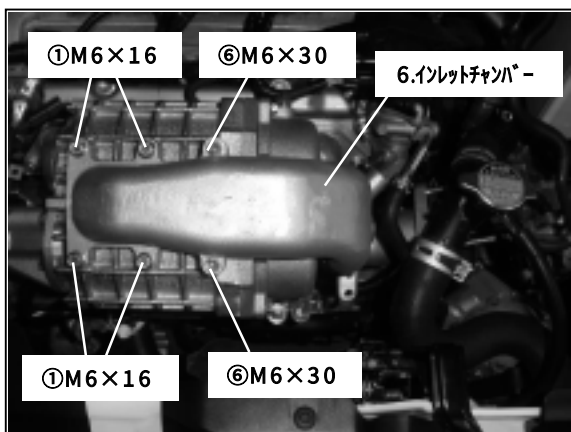
	新品時	点検時
張力 (N)	539～637	245～392
たわみ量 (mm)	6～7.5	9～11



(22) 純正オイルレベルゲージガイドを 10.レベルゲージステー、①フランジボルト M6×16、③フランジボルト M8×35 を使用して取り付け。

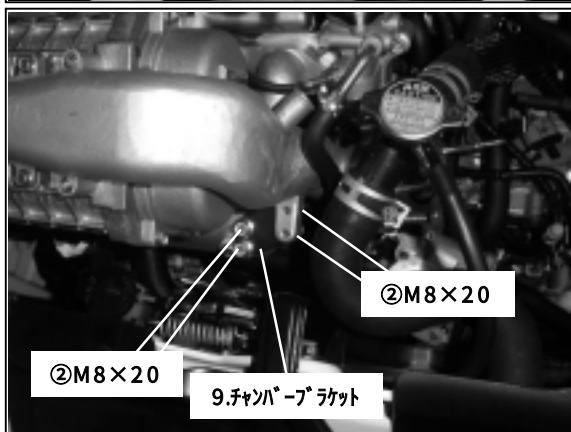
トルク M8：20 N・m

トルク M6：10 N・m



(23) 6.インレットチャンバーを 2.コンプレッサーガスケット①フランジボルト M6×16 (4ヶ)、⑥キャップボルト M6×30 (2ヶ) を使用して取り付け。

トルク：10N・m



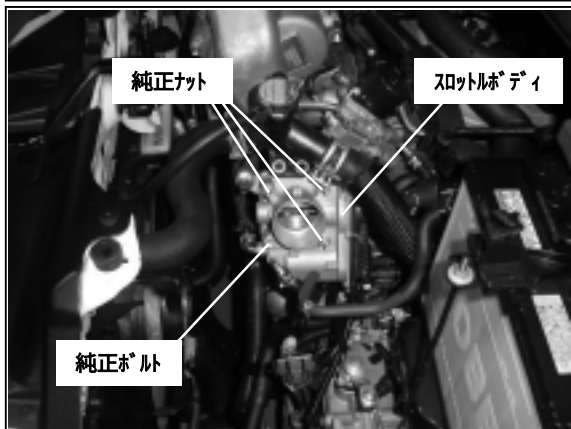
(24) 9.チャンバーブラケットを②フランジボルト M8×20 (4ヶ) を使用して取り付け。

トルク：19N・m



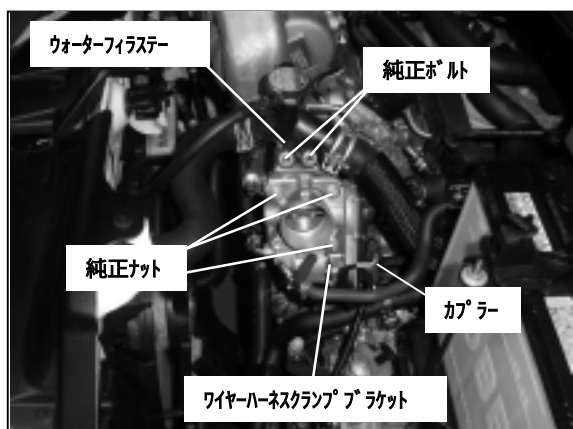
(25) 図の位置の純正ホースを取り外し、26.オイルホースを適当な長さにカットして取り付け。

(26) 図の純正ホースを取り付ける。

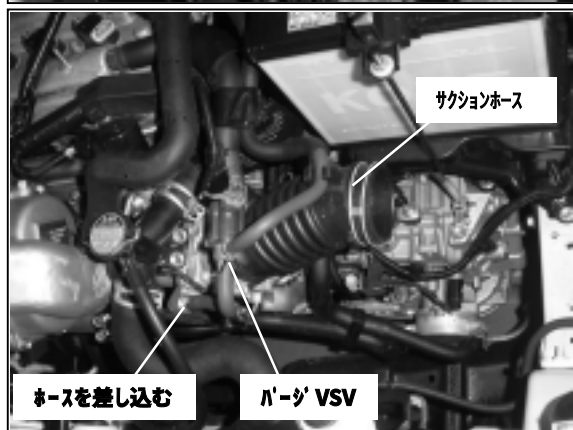


(27) スロットルボディを純正ナット (3ヶ)、純正ボルト (1ヶ) を使用して取り付け。

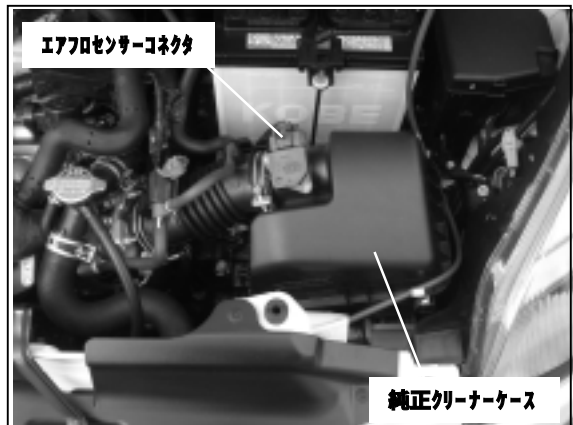
トルク：10N・m



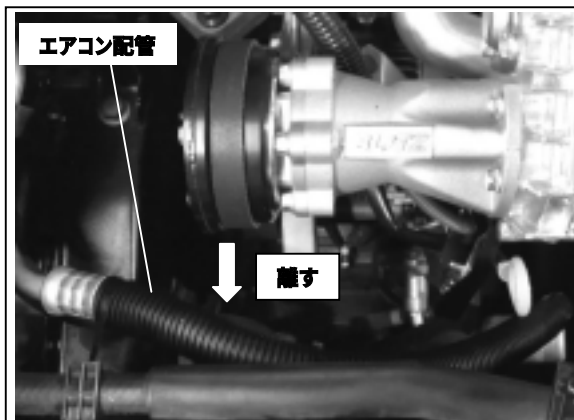
(28)図のウォーターフィラスター、ワイヤーハーネスクランプブラケットを取り付け、スロットル部カプラーを取り付ける。



(29)サクシヨホース、パージ VSV を取り付け、23.ニップル 1/4 × 9 部分にホースを差し込む。

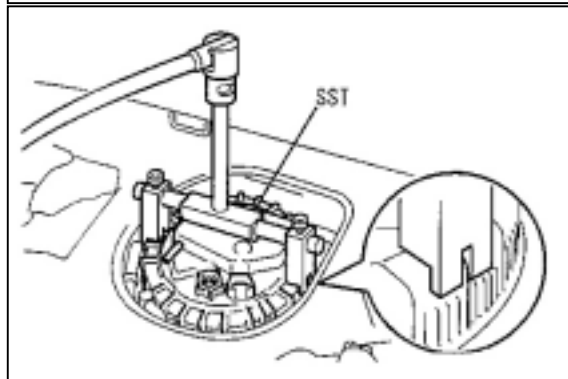
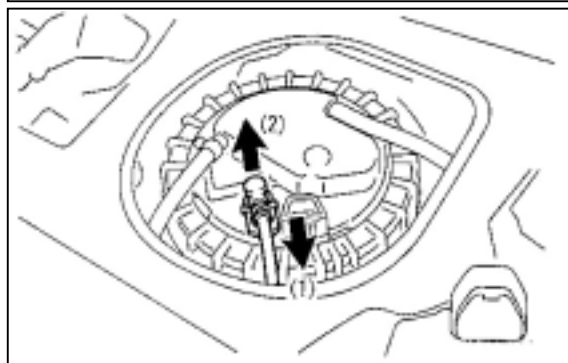
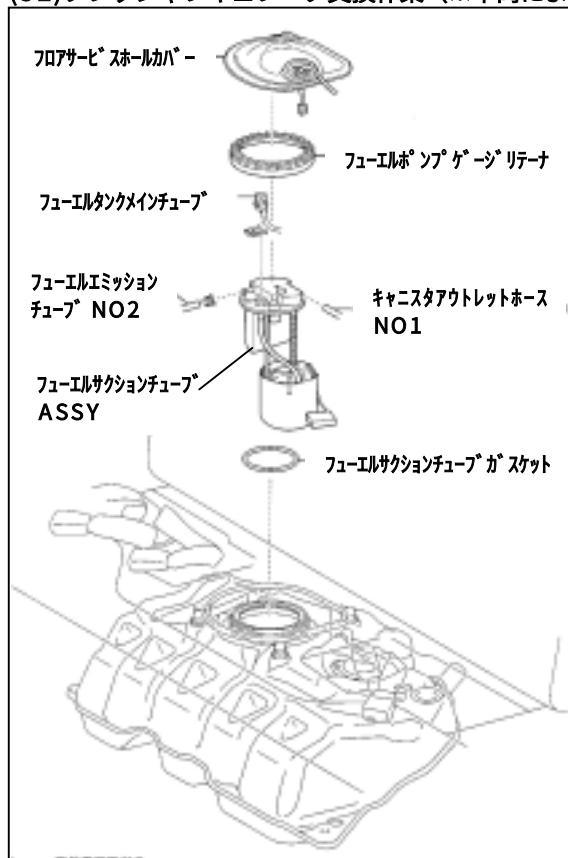


(30)純正クリーナーケースを取り付け、エアフロセンサーのコネクタを差し込む。



(31) 製品番号：10185 の場合、図のエアコン配管に 28.φ22 コルゲートチューブを巻き、33.タイラップでコアサポート部の穴を使いコンプレッサー本体ノーズ部から離す。
※キット部に干渉しないよう調整し、張りすぎに注意する。

(32)プレッシャレギュレータ交換作業（※車両により若干形状が異なる場合があります）



- ①フューエルタンクメインチューブ切り離し
(1)チューブジョイントクリップ先端を広げ、矢印方向に引き抜く。

- (2)メインチューブを引き抜いて切り離す。

注意

- 作業前にクリップ部に付着した泥などの異物を清掃する。
- フューエルチューブジョイントはＯリングによりフューエルタンクメインチューブとフューエルサクションチューブＡＳＳＹをシールしているため、接続部の傷つきおよび異物の付着に対し、十分注意して作業をおこなう。
- 脱着作業は必ず手で行い、工具などを使用しない。
- ナイロンチューブを無理に曲げたり折ったり回転させたりしない。
- 切り離し後、接続部をビニール袋で保護する。
- ナイロンチューブとフューエルサクションプレートが固着している場合は、押したり引いたりして固着を解除する。

- ②フューエルエミッションチューブNO2をフューエルサクションチューブASSYから切り離す。

- ③キャニスタアウトレットホースNO1をフューエルサクションチューブASSYから切り離す。

- ④SSTを使用してフューエルポンプゲージリテーナを取り外す。

SST トヨタ品番：09808-14020

注意

必ず専用SSTを準備して作業を行ってください。

〈参考〉

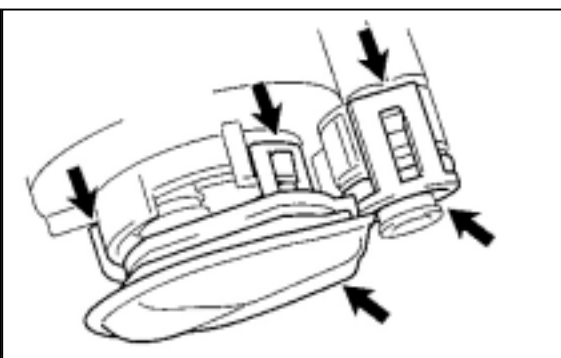
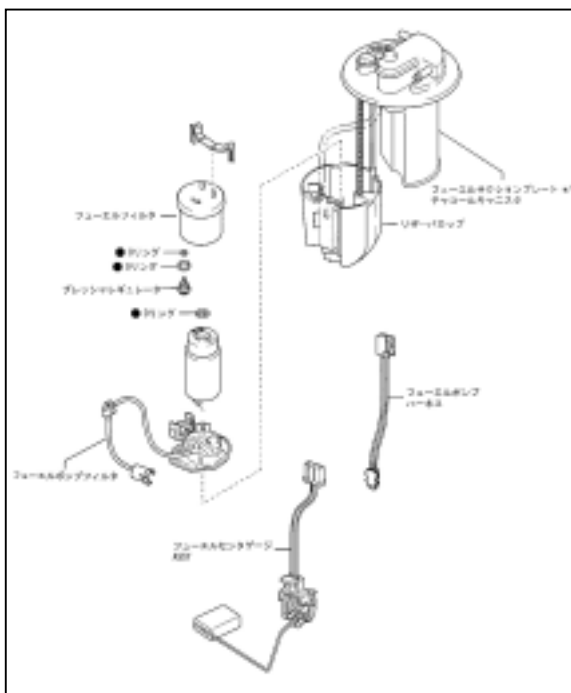
フューエルポンプゲージリテーナのツメとSSTの先端を合わせる。

- ⑤フューエルサクションチューブASSYをフューエルタンクから取り外す。

注意

センダゲージのアーム部が曲がらないように注意する

- ⑥ガスケットを取り外す。



- ⑦保護テープを巻いたマイナス薄刃ドライバーを使用してツメのかん合5箇所を外し、フューエルフィルタからフューエルポンプフィルタを取り外す。

注意

フューエルサクシジョンフィルタおよびフューエルポンプフィルタを傷つけない。

- ⑧保護テープを巻いたマイナスドライバーを使用してプレッシャレギュレータを取り外す。

- ⑨Oリングにガソリンを塗布し、22レギュレータを取り付ける。

- ⑩フューエルポンプフィルタのツメを5箇所合わせ、フューエルポンプフィルタをフューエルフィルタに取り付ける。

- ⑪新品のガスケットを介して、フューエルサクシジョンチューブASSYを取り付ける。

注意必ず新品のガスケットを取り付けてください。燃料漏れの原因になります。

トヨタ品番：77169-52020

- ⑫SSTを使用してネジ開始点からリテーナを525°～545°締め付けて、合わせマークの間に入れる。

〈参考〉

- ・フューエルポンプゲージリテーナのツメとSSTの先端を合わせる。
- ・リテーナをネジ開始点から90°程まわした時点でリテーナのネジ開始点の反対側を上から押し込み、タンクのネジにリテーナが入っている事を確認する。

- ⑬キャニスタアウトレットホースNO1を接続する。

- ⑭フューエルエミッションチューブNO2を接続する。

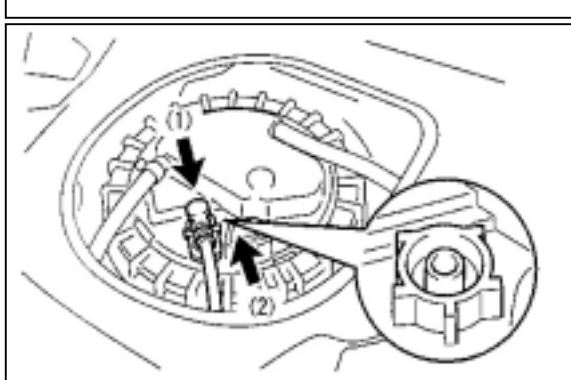
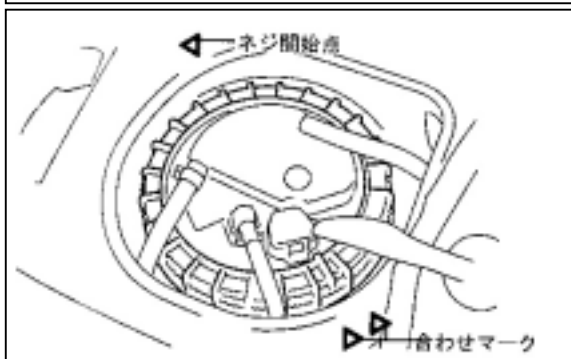
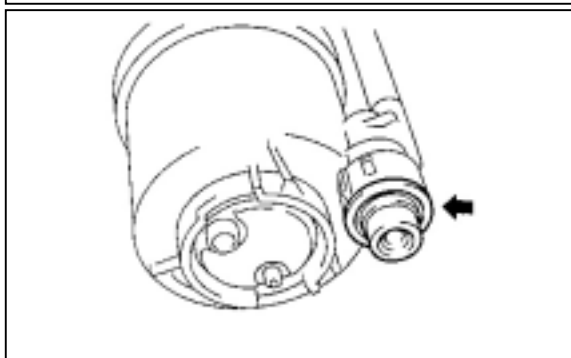
- ⑮フューエルタンクメインチューブ接続

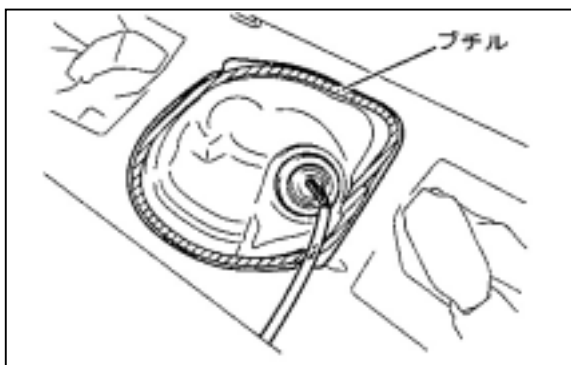
(1)メインチューブをプラグに差し込む。

(2)チューブジョイントクリップを取り付ける。

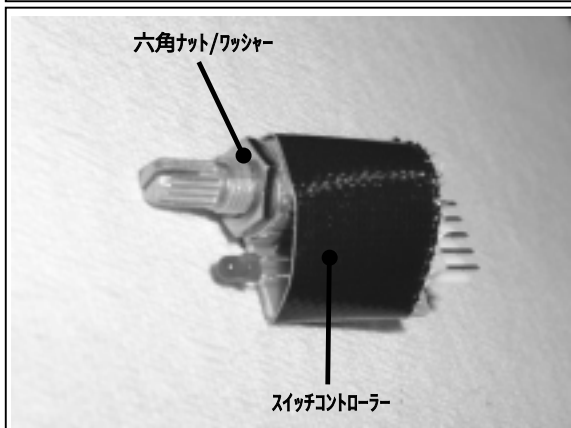
注意

- ・接続部に傷および異物の付着がない事を確認する。
- ・メインチューブが奥まで確実に差し込まれている事を確認する。
- ・チューブジョイントクリップがメインチューブのツバの上にある事を確認する。
- ・ジョイントクリップを取り付け後、メインチューブが抜けぬ事を確認する。





- ⑯リアサービスホールカバーを取り付ける。
 ⑰リアシートクッションを元のように取り付ける。



(33)20.スイッチ用プレート、18.スイッチコントローラー取り付け作業

注意 スイッチの取り付けには穴あけ加工が必要となります。

取り付け位置はお客様にご確認の上、加工・取り付けを行ってください。

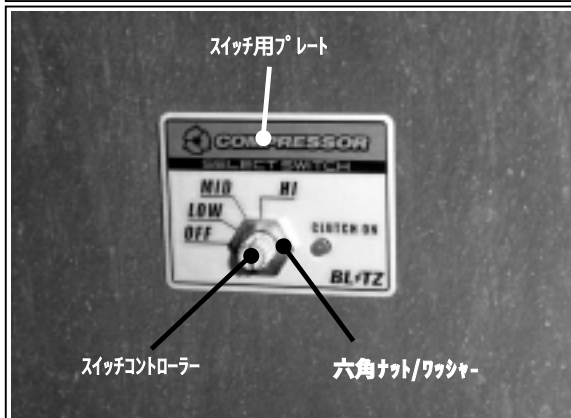
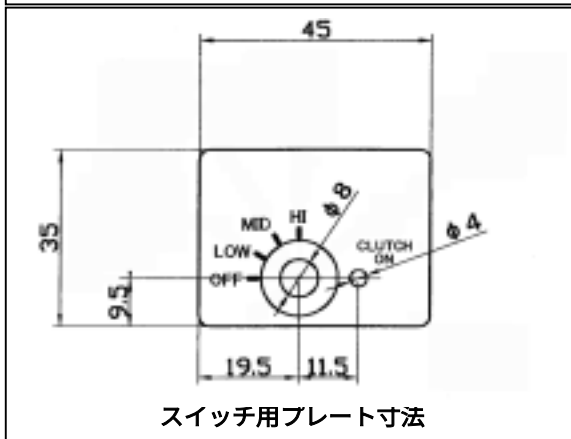
- ①18.スイッチコントローラーの調節つまみ部の六角ナット及びワッシャーを取り外す。
 ②18.スイッチコントローラーを取り付ける場所に穴あけ加工する。

※穴寸法は、図をご参照ください。なお、取り付け部分の厚み等により、若干の寸法の調整が必要です。

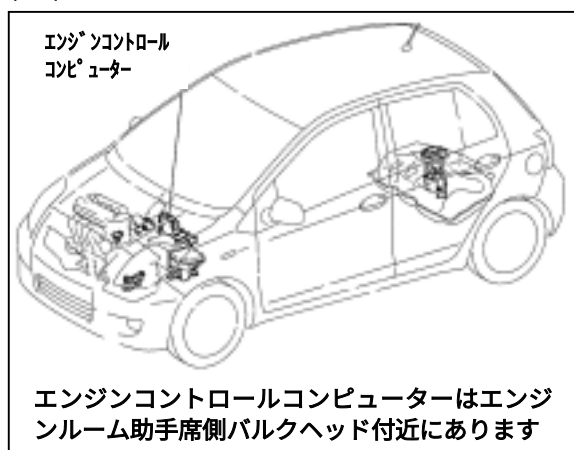
- ③あけた穴に、18.スイッチコントローラーの調節つまみ部と赤色LEDを通し、表面保護シートおよび裏面剥離紙を剥がした20.スイッチ用プレートを上から被せ、六角ナット・ワッシャーで固定する。

- ④18.スイッチコントローラーのつまみ取り付け部を反時計回りに止まるまで回し、調節つまみのマークがOFFに合うように取り付ける。

※調節つまみを回し、プレート表記位置とつまみマークが合っていることを確認してください。



(34)19.電磁クラッチ用スイッチ、21.リレーハーネス配線作業



- ①21.リレーハーネスのカプラーと 1.コンプレッサー本体のカプラーを接続する。
- ②21.リレーハーネスのリレー本体を適当な場所に固定する。
- ③21.リレーハーネスの 6mm丸端子をボディアースに、8mm丸端子をバッテリーに接続する。

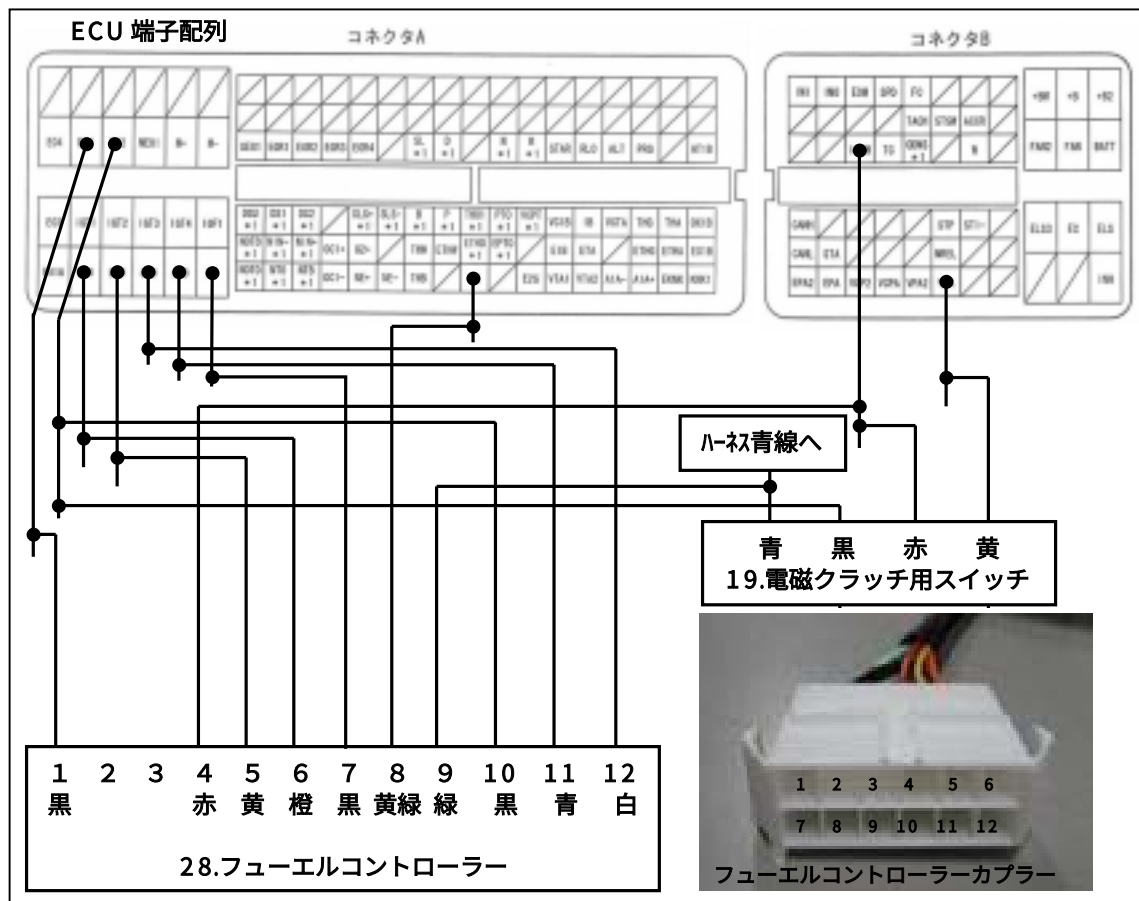
注意

配線類の皮膜には 27.Φ7 コルゲートチューブを使用してください。

- ④19.電磁クラッチ用スイッチの黄線 (VPA)、黒線 (E01)、赤線 (IGSW) を ECU 配線図を参考に配線する。
- ⑤ギボシを使用して 19.電磁クラッチ用スイッチの青線を、21.リレーハーネスの青線と接続する。
- ⑥18.スイッチコントローラーにカプラーを接続する。

(35)29.フューエルコントローラー取り付け作業

- ①ECU 端子配列図に従って、29.フューエルコントローラー配線と純正 ECU 配線を接続する。
※全て、又取り配線となります。
※配線の断線・接続不良には、十分注意して、作業してください。最悪の場合、エンジン破損の原因となります。
- ②29.フューエルコントローラーを適当な場所に固定する。
- ③配線類を、タイラップを使用して固定する。
※高熱部や可動部に接触しない安全な位置に固定してください。



- (36)エンジン始動前、セレクトスイッチをLOW、MID、HIにしてそれぞれの位置でアクセルペダルを踏み込み、途中でコンプレッサープーリーのクラッチがONになる事を確認してください。
※スイッチコントローラー部LED（赤）の点灯及びエンジンルームコンプレッサー本体の電磁クラッチ部を確認してください。
- (37)エンジンを始動し、アイドリング状態で5～10分間放置する。
- (38)エンジン始動状態でレーシングを行い、ベルトの滑りを確認する。
※ベルトが滑っている場合はベルトテンションの調整を行ってください。
※実走行でベルトの滑りが出ている場合も同様にベルトテンションを調整してください。

注意事項

- ・ ガソリンは必ずハイオクガソリンに入れ換えてください。
レギュラーガソリンが残っている場合はコンプレッサーの電磁クラッチをONにしないで走行してください。（セレクトスイッチOFF位置）
何度か給油し、燃料タンク内のガソリンが完全にハイオクガソリンになってから電磁クラッチをONにして走行してください。

注意 レギュラーガソリンで電磁クラッチをONにして走行するとノッキングを発生させ、エンジン破損の原因になります。

- ・ 車両をバックさせる場合は、セレクトスイッチは必ずOFF位置にして下さい。
- ・ 純正触媒の取り外しは絶対に行わないでください。
- ・ キット付属の部品以外の装着は絶対に行わないでください。

以上で、本キットの取り付けは終了です

〔7〕取り付け後の確認

■ エンジン始動前の確認

- ・ パイプ、ホース等配管及び配線に間違いがないか確認してください。
- ・ ボルト、ナット類の締め忘れがないか確認してください。
- ・ ガソリンはハイオクガソリンが入っているか確認してください。
- ・ 本キット以外の部品（点火プラグ以外）が装着されていないか確認してください。

■ エンジン始動後の確認

- ・ コンプレッサー、エンジン本体から異音等がないか確認してください。
- ・ 軽く空ぶかしをおこない、Vベルト、コンプレッサー等に異常がないか確認してください。（ベルトのスリップ、歯とび）
- ・ 冷却水、燃料、オイル等の漏れがないか確認してください。
- ・ 各部の干渉がないか確認してください。

〔8〕メンテナンス

快適に運転していただく為、お車を運転する前には必ず日常点検を行ってください。

尚、本キットを取り付けた後に維持、管理する項目については必ず実施してください。

■ コンプレッサーキット装着時の維持、管理項目

- ・ エンジンオイルの定期的な交換（推奨 5 0 0 0 Km以内で交換）
 - ・ エンジンオイルフィルターの定期的な交換（推奨 1 0 0 0 0 Km以内で交換）
 - ・ ハイオクガソリンの使用（レギュラーガソリンは絶対に使用しないでください）
- ※キット付属の専用ハイオクステッカーを給油口内側に貼り付ける事をお勧めします。

■ Vベルトのメンテナンスについて

本コンプレッサーキットでは、Vベルトを利用しコンプレッサーを回転させ、過給を発生させています。定期的にVベルトの点検・張りの調整を行ってください。

- ・ Vベルトの点検・張りの調整 推奨5 0 0 0 kmで点検・調整
※Vベルトは、新品初期に一番伸びる特徴があります。新品Vベルトを取り付けた際5 0 0 km以内で、張りを調整して下さい。
- ・ Vベルトの交換サイクルは車両の状態・運転の状況により異なります。Vベルトにヒビ、亀裂、歯とび等の劣化が確認された場合は交換をお勧めします。
※Vベルトの点検・張りの調整を行わない場合、Vベルトがスリップしてしまう事があります。Vベルトがスリップしている状態ではコンプレッサー本来の性能を発揮できない場合があります。
- ・ ベルトがスリップしている状態での走行は行わないでください。
※Vベルトがスリップしている状態で走行を続けると、Vベルト表面がすれてしまいベルトのテンションを調整してもスリップが止まらなくなる恐れがあります。
テンションを調整してもスリップが収まらない場合はVベルトを新品と交換してください。

〔9〕推奨パーツ

- ・ Vベルト（4PK540）

コードNo. 1 0 1 6 8 - 0 1 2

●製品についてのご相談先

製品についてのお問い合わせは、お電話またはFAXにて下記宛てにお願いします。

■連絡先 （株）ブリッツ

■TEL 0 5 6 6 - 7 9 - 2 2 0 0

■住所 愛知県安城市高棚町大道40-1

■FAX 0 5 6 6 - 7 9 - 2 0 7 0

製造 ・ 発売元	株式会社 ブリッツ
取扱説明書番号	1 0 1 6 8 0 0 4
初版作製年月日	2 0 0 6 . 3 . 1

BL⚡TZ